

Pollaplonyx flavides Waterhouse

キコガネについて*

高橋寿郎

On *Pollaplonyx flavides* Waterhouse (Scarabaeidae, Col.) By Tosio Takahasi

本種は Waterhouse 氏に依り記載され (1875), 其の後新島・木下両氏は熊本産を (1923), 平山修次郎氏は東京産を原色で図説されている (1937, 1940), 最近では三宅義一氏が福岡県から (1957), 楠博幸氏は愛媛県を (1959) 夫々記録されており之に依り本種の分布は本州・四国・九州におよぶ事になるが一般には余り知られていなく、地方のリスト等も注意しているが記録がない様である。此の度兵庫・愛媛両県産の標本を検する機会にめぐまれたので此処に貴重な紙面を借りて本種を紹介して注意を喚起したいと考える。

本文を草するにあたり兵庫県産標本を検する機会を与えられた柏原高校の高橋匡氏、愛媛県産の標本を恵与並びに産出状況の御教示を頂いた楠博幸氏にそれぞれ厚く御礼申し上げる。

Pollaplonyx flavidus Waterhouse キコガネ

Pollaplonyx flavidus Waterhouse, Trans. Ent. Soc. London, pp. 105~106, pl. III, f. 6, ♀ (1875) — K. W. von Dalla Torre, W. Junk Coleop. Cat. Scarab. Melol. III, p. 249 (1912) (Japan) — Arrow, Ann. Mag. Nat. Hist. 8, I, p. 305 (1913) (Japan — Niiijima et Kinoshita, Res. Bull. Coll. Exp. For. Coll. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Sapporo, I, 2, p. 42 (1923) (Kumamoto-Kyūshū) — Kato, Ent. World, III, 2, p. 114 (1935) (Kyūshū) — Hirayama, Col. Illus. Thous. Ins. pl. 64, f. 3. 135 (1937) (Inogashira-Tokyo) — Miwa et Chūjō, Cat. Col. Jap. V, Scarab. p. 67 (1939) (Kyūshū) — Hirayama, Col. Illus. Coleop. pl. 23, f. 3, p. 56 (1940) (Inogashira-Tokyo) — Miyake, Kita-Kyūshū no Konchū, IV, 3, p. 11 (1957) (Riutoku-Fukuoka Pref. Kyūshū) — Kusunoki, Matsuyama Konchu Dokokai Tanpo, No. 14, p. 2 (1959) (Takanawayama-Ehime Pref. — Shikoku).

体長楕円形にて黄色光沢を有す。上面に毛を有せず。眼黒色。

頭楯前縁上反し中央に於て強く湾入する。前縁近く粗に会合線近くに密に点刻を有す。後頭部は平滑。

前背板巾広く前縁角僅に鈍く突出する。後縁角は円形なり。側縁に一列の黄褐毛を存す、

小さい点刻を一面に散布する。

稜状板半円形にして平滑両側に僅少の細点刻を有し色彩翅鞘よりやや濃い。

翅鞘は後方に少しく広く4個の縦隆線あり外部の2線は巾甚だ狭く中間室はやや強く密なる点刻を存する。

尾節板点刻は疎、先端に黄褐色細毛あり。

下面一様に黄色にして胸部に黄色の軟毛を多く存す、腹節の面には密なる点刻と細短毛を存す。腹面中央ぞいに雄は凹んでいる。

小腮枝雄極めて長く触角の第5節迄の長さに等しい、第2節最も長く第3節は巾広く先端節は斧形を呈す、雌は之亦長いが先端節は端末截形である。

触角は雄第1節一番長く第2.3はほぼ等しく4.5節は長く、4.5節の連結部は余り明らかでないが第6.7節は最も短い、片状節は3節にて第1節が一番長い他は大体同長、雌も構造に於て一致するが片状節雄長形に比し雌は卵形である。

前脛節の外歯は2箇にして雄に於いては第1歯先端鋭く第2歯は極めて小さく僅に認め得る程度であるが雌の第1歯は先端鈍く第2歯は明瞭。

体長: 17-17.5mm 体幅: 8-9mm

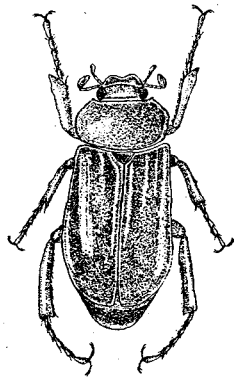
(検視標本) 兵庫県氷上郡青垣町神楽(1♂, 10-V-1958, 高橋氏採集)、同高源寺(2♂♂, 1♀, 30-V-1959, 高橋氏採集)、同市島町妙高山(1♂, 13-VII-1958, 高橋氏採集)、愛媛県北条市高縄山(3♂♂, 5-V-1954, 楠氏採集)。

(分布) 日本(本州、四国、九州)。

くろこがね類(Rhizotrogina)には現在日本産上記 *Pollaplonyx* 以外に *Miridiva*, *Lachnosterna* の2属を産し之等の属の種と本種は色彩に於て一見極めて簡単に区別出来る、即ち黄色艶のある種は他の両属には全くない、さらに *Miridiva* 属は触角9節なる事に依り異り *Lachnosterna* とは体上面に毛を有せぬ事、小腮枝が極めて長く、前脛節には2外歯を有するが *Lachnosterna* の種は3外歯を有する点で区別出来る。

平山氏に依ると春季四月頃発生し、燈火に飛来し、井之頭に多産するとあり、楠氏の愛媛県北条市高縄山に就いては同氏の御教示に依ると同山での一番始めの記録は

* 兵庫県甲虫相資料 13.

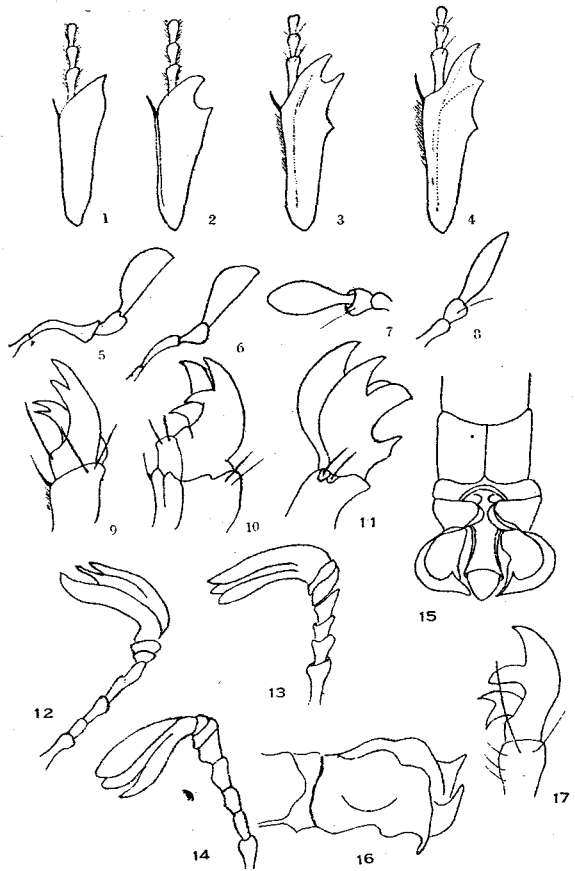


Pollaplonyx flavides Waterhouse

1953年5月7日篠永哲氏に依るもので其の後楠氏自身アセチリン燈で多数採集され(1-V-1954),一夜に5~60頭も飛来したとのことである。高縄山頂(標高950~960m)附近の原始林内に限り見られ昼間での発見はまだとのこと。兵庫県産のものは氷上郡市島町妙高山で1合が採集され、同じく同郡青垣町神楽の高源寺境内で夜間灯火採集して数頭得られ本年にも再び同じ所で数頭得られ之も灯火に飛来している。以上はつきりした産地のもの全部が灯火に飛来したもので昼間採集というのは全く記録されていない、此の辺に案外本種の知られていない原因があるかとも考えられる、従つて生態に就いては目下の所全くわかつていない。

(1-IX-1959)

1. *Pollaplonyx flavides* WATERHOUSE, 前脛節, ♂
2. " " " " , 前脛節, ♀
3. *Lachnosterna convexopyga* (MOSEK,) 節脛節
4. *L. picea* WATERHOUSE, 前脛節
5. *Pollaplonyx flavides*, WATERHOUSE, 小脛枝, ♂
6. " " " " , 小脛枝, ♀
7. *Lachnosterna morsosa* WATERHOUSE, 小脛枝,
8. *L. picea* WATERHOUSE, 小脛枝,
9. *Pollaplonyx flavides* WATERHOUSE, 前脚爪、



10. *Miridiva castanea* (WATERHOUSE), 前脚爪、
11. *Lachnosterna morsosa* (WATERHOUSE), 前脚爪、
12. *Pollaplonyx flavides* WATERHOUSE, 触角, ♂
13. *Miridiva catanea* (WATERHOUSE), 触角、
14. *Pollaplonyx flavides* WATERHOUSE, 触角, ♀
15. " " " " , 雄交尾器, 背面、
16. " " " " , 雄交尾器, 側面、
17. *Lachnosterna kiotoensis* (BRENSHE,) 前脚爪、

(44ページより続く)

化してきた。しかし、この♀は羽化と同時に、絶えず監視を怠らなかつた最初の発見者幹君によつて再び見つけだされ、まもなく捕殺された。そのため、その後の発展経過については知るよしもなく、一応結末を告げたわけであるが、ともかく、野外において一世代を完全に経過した事実だけでも愉快である。

最近蝶の北進といい、環境が生活条件に適しさえすれば、土着することもあり得るのであるから、今後も大い

に注目すべき問題であると思う。

なお、最初の1♀は山本が、また孵化による1♂2♀は数岡君が所蔵している。

発生その他については明らかでないが、加古川市の場合、産卵、食樹ともにダイダイ樹であり、県下における採集並びに野外羽化はすべて7~8月に行われている。

1♀ 17/VII, 1958 加古川市北在家

coll. Miki, poss. H. Y.

(未完)